

# 第9回「日本語大賞」

テーマ「ちょっと気になる日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

ありがとうの言霊

神奈川県

小学4年

竹内 彩華

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「ありがとうございました！」

ミラー越しに目が合ったバスの運転手さんが私の大声に一瞬驚き、それからニッコリと笑う。私は鼻歌を歌いながらバスのステップを降りる。

人の笑顔って良いな。

日本は言霊の力によって幸せがもたらされる国「言霊まきはの幸ふ国」とされたと言われており、私の好きな歌聖と呼ばれている柿本人麻呂も言霊信仰に関する歌を詠んでいて、夏休みに国立公文書館に百人一首の企画展示を見に行ってきたのだが、流麗で優艶な作品を、目の当たりにして溜息をついてしまい、優雅な王朝時代の世界に誘われ、まさに日本語の放つ美しさにうっとりとなったのだった。

昔、外食をしていた際に親戚のお婆さんが店員さんに怒鳴りつけて、一気に食事が不味くなり同席しているのが恥ずかしくなった。

お金を払ってるからいいのよ！とお婆さんは息巻いていたけれど、私はいくらお金を払っているといっても人を故意に傷付ける言葉は言うべきではないと感じた。

外食の際にお料理を運んできた店員さんの中には「ありがとうございます。」と言うと、ニコツとして帰る際に又来てね、と手を振ってくれる方もいた。

「有難う」という言葉の語源は「有難し」で、枕草子に見られるように「有ることが難しい。稀である。」という意味で、「反対語は「当たり前」という言葉になるそうだ。

人にやってもらって当たり前前、お金を払ってるのだから強く出て当たり前前、バスで安全運転してもらって感謝しないのも、当たり前前：e t c . . .

「有ること難し。」

生きている事、元気に食べられる事、生きて人と出逢う事、これは決して当たり前なんかじゃない。

私は人との出逢いを大事にして、自分に親切にしてくれる人の笑顔が見たい。

「ありがとうございます。」

その一言で下を向いていた店員さんや見守り隊の方々、名も知らぬ親切な人達の顔がパッと輝くのだ。

言葉には威力がある。人を傷付け苦痛に歪める顔をさせるのも、綺麗な笑顔をさせるのも自分次第だと思う。

私は生ある間、沢山の人の笑顔が見たい。

まずは自分の身近なところから始めている。感謝の気持ちを伝え、小さな幸せの連鎖が起ころのを願っている。

気のせいかな最近バスで御礼を言う方が増えた気がする。見ていて心がほんわかするのだ。だから今日も私は続ける。

「最後まで読んでくださり、ありがとうございます。」